

事例9 切れ目のない家庭教育支援の工夫

市町・公民館等	矢板市 矢板公民館
事業	ママパパ KIDS おたのしみ会

1 事業を始めたきっかけ

公民館全体として、昨年までは講座数は多かったが、人が集まらないという問題があった。講座（にこにこセミナー等）への参加者もリピーターが多く、内容もマンネリ化している傾向があった。

そこで、「矢板公民館 2017 Re-born PROJECT」と銘打って事業の再検討を図ることとした。内容を洗い出し、精選し焦点化して講座数を減らした。その分、中身（テーマ・内容・対象者等）を明確にし、充実させることを目指した。市民が何を求めているのかを具現化して、しっかりイメージも伝えていく努力をした。高齢者の自主講座が多いので、公民館に来館していない層の人たちを呼び込むことに力をいれた。PDCA の充実、アンケートもしっかり取り（講座によって中身を変える）、次につなげることも意識した。

2 活動内容

「ママパパ KIDS おたのしみ会」

- ・従来あった「にこにこセミナー」の対象であった小中学生の保護者を幼児の保護者まで対象を広げる。
- ・内容は、家庭教育＋幼児教育とし、全部で12の講座を企画をした。
- ・公民館に来ている人材（利用者）も活用する。

3 成果と課題

○成果

- ・チラシ等の広報物は、昨年までの白黒からカラー刷りに変えた。デザイン等にもこだわりを持ち、手に取った人に興味を持ってもらえるように工夫した。配付は基本的には班回覧となっている。講座によっては、チラシの配布方法によって参加状況等が変わるので、例外もある。「ママパパ KIDS おたのしみ会」は講座一覧を載せたリーフレットを最初に配付した。「受験生応援企画！～第2弾～」と「キャンプにゴー！」については、別にチラシを作成し、講座実施が近づいた頃に配付をした。
- ・どの講座もほぼ満席になり、集客はアップした。
- ・今まで来ていない人が来るようになり、新規参加者の発掘ができた。
- ・ママパパ KIDS おたのしみ会の事業内容や様子そして、講座で作った作品を掲示することにより、興味をひきつけ次の講座へとつながりができた。そして公民館は身近なものと感じてもらえるようになった。



○課題

「受験生応援企画！」では、中学生と保護者には、受験スイッチを入れてもらうために、次年度はもう少し早い時期に開催したい。

また、館外研修は、開催が夏の暑い日という事や対象者に幅があったため内容に不満を持つ方が出てしまった。次年度は対象者を絞る等、工夫をしたい。

4 その他

・「ママパパ KIDS おたのしみ会」は、ほとんどの講座で託児を行っている。基本的にはシルバー大学の自治奉仕活動委員に依頼し、栃木県家庭教育オピニオンリーダーさんたちにも協力いただいている。

・「受験生応援企画！」は、昨年度までの「にこにこセミナー」を整理した結果、中学生対象のものがなくなってしまったので、代わりになるものをということで考えた。教育委員会や各中学校長に説明して連携することができた。新聞掲載も依頼した。

(調査協力：矢板市矢板公民館 館長 田代博子、
社会教育指導員 佐藤彩香)



受験生応援企画！～第2弾～
高校入試情報 説明会
11月19日(日) 13:30～15:00
皆元 百代 先生

ベネッセコーポレーションの高校入試情報分析、受験対策の専門家による説明会。県立高校入試制度の最新情報とともに対策方法を解説します。進路のお話、学習方法のアドバイスなど、受験生はもちろん、中学1・2年生にも役に立つ内容です。
***100人(中学生と保護者の方) *無料**